



一般社団法人 都市計画コンサルタント協会

## 協会レビュー 2015年第3号

### 協会での取り組み 都市の聖地づくり研究会（まちづくり技術交流部会関西）

#### 関西で、面白そうな活動、やっています。

当協会には、5つの常置委員会と協議会、2つの特別委員会が設置され、会員企業の協力のもと、様々な活動や検討が行われています。

この中で、関西地区協議会に設けられている「まちづくり技術交流部会関西」が、どうやら面白い活動をしているらしいのです。なんでも、「聖地巡礼ツアー」と称して、大阪近傍の聖地スポットを訪ね回っているとか。

折角だから、活動をされている方に直接伝えてもらおうとの編集部の判断で、部会長の安井建築設計事務所 杉野卓史様に寄稿をいただくことになりました。

以下から、杉野様の寄稿となります。なかなか興味深く、楽しそうです。こういう活動、関東でもあるといいなあ。

（編集部 津端）

#### 1. プロローグ ー全ては神の思し召しー

2014年10月22日、大阪市内某所に関西の都市計画コンサルタント十数人が集まり、あみだくじが行われた。そして私がアタリを引いた。仮にも研究会と名のつく場で、いい大人がワイワイ騒ぎながらあみだくじで会長を選出。何といういい加減さ。しかし今振り返ると、偶然から強引に事実を生み出すそのプロセスは研究会のテーマを暗示しているようでもあり、そう考えるとあのあみだくじが聖なる儀式のごとく思えてくる。何はともあれ、その日から私たちの聖地巡礼の旅が始まった。

## 2. そもそも「都市の聖地」とは何か

何か人を引きつける場所に対し、聖地という言葉は意外と頻繁に使われている。ある時はうやうやしく、またある時は軽々しく。私たちが研究対象とする聖地はいわゆるパワースポットのなものだけではなく、極めて俗っぽい売り文句としての「〇〇の聖地」も含んでいる。いわば世の中に氾濫する変幻自在な聖地の概念を丸ごと対象にする無茶な試みだが、「聖地」そのものではなく「聖地づくり」のプロセスに着目した時に、共通するセオリーのようなものを発見できるのではないかと考えた。

とは言え、聖地にまつわる疑問は尽きない。聖地とは人が集まる場所なのか、むしろ近寄りたくない場所なのか。歴史ある信仰の地であっても、その起源には必ず仕掛人がいたのではないか。聖地が特定多数を集める手法はエリアマネジメントに応用できるのではないか。おそらくその答えは机上には無く、実際に聖地を巡りながら開眼していくしかない。

## 3. 旅する研究会

研究会は月1回の開催で、「聖地巡礼ツアー」と会議室でのディスカッションとを交互に実施している。ツアーは研究会のメンバー（現在18名 ※新規会員随時募集）が持ち回りで企画し、自らガイドとなって聖地を案内する。「旅のしおり」の作成に始まり、見学先やヒアリング先の段取り、聖地の食を堪能できる懇親会の手配まで。ディスカッションでは前月のツアーを振り返り、そこで学んだ聖地づくりの極意について議論。そして次のツアーの企画と担当ガイドを決める。



旅のしおり



オリジナルロゴ

会議室に留まらずツアーを繰り返すその様はまるで、悟りを求めて旅を続ける求道者。自身にそんなイメージを重ね合わせ、研究会のオリジナルロゴを制作した。このロゴは「旅のしおり」や対外的な情報発信には常に使用されている。

#### 4. 聖地巡礼の旅① 串カツの聖地・新世界 (2014/12/18)

記念すべき第1回聖地巡礼ツアーの行き先は、ディープ大阪の代表的エリアの一つ、新世界。「串カツの聖地」としての歴史は、戦後に界隈が労働者の街になったことに端を発する。この時期、早く安く食べられる串カツ屋が自然発生的に増えていった。その後一時期廃れるが、平成初期に起こった昭和レトロブームで街が観光地



新世界

化し、昔ながらの串カツ屋もその追い風を受ける。さらなる転機として、この10年間で串カツ界に一気に新興勢力が台頭。ただしこれにより老舗が蹂躪される気配はなく、むしろ裾野が広がったことにより老舗の地位が向上した感さえある。

街は長い年月の中で否応無しに変化を繰り返す。それが偶然であれ必然であれ、新世界は串カツの聖地らしくうまくコロモ替えをしながら変化に対応し、今もなお聖地であり続けている。

#### 5. 聖地巡礼の旅② でんぼの神と占いの聖地・石切 (2015/4/15)

第2回は果てしなく古い歴史を持つ信仰の地、石切劔箭神社とその門前町。2つの百度石の間を行き来する「お百度参り」はこの神社の代名詞とも言える光景だが、そこに聖地づくりの極意を見出すことができる。まず、信仰をわかりやすく翻訳した行為として見せること。そして来訪者をその行為に導く仕掛け（100回数えるための「お百度紐」など）が周到に用意されていること。

また「あやかりやすいストーリー」も極意の一つ。この神社のご神体は劔。その劔がでんぼ（腫れ物）を切るということで、



石切劔箭神社の「お百度参り」



腫物治癒の聖地に。そうなると参拝の動機は明確で、切実な悩みを持った人がやってくる。そして近年は、彼らのあやかりたい気持ちに目をつけた占いの店が次々と進出。

このように聖地から二次的に別の聖地が生まれるのは、「聖地あるある」とも言える定番の現象。



お百度紐

## 6. 聖地巡礼の旅③ スパイスカレーの聖地・裏谷四～北浜（2015/6/24）

第3回は少しマニアックな趣向となった。近年「スパイスカレーの聖地」としてメディアでよく取り上げられているエリアがある。雑居ビルの一角など街の隙間にジワジワと増殖する無数のスパイスカレー店。これらは一見とりとめもなく散らばっているようだが、実はゆるやかな序列でつながっている。すべての始まりは一人のカリスマ（第1世代：カシミール）で、そのすごさに気づいて後を追う者たち（第2世代：コロンビアエイトなど）が現れ、さらに新たな挑戦者（第3世代：バビルの塔など）が今も続々と名乗りを上げている。

師弟関係とはまた違う「リスペクト」によるゆるやかな序列の形成は、彼らの多くが自由な表現を求め、音楽やアートのような感覚で自分だけのカレーを追求していることと無関係ではないだろう。



北浜のスパイスカレー店「コロンビアエイト」

## 7. 聖地巡礼の旅④ 高校野球の聖地・甲子園（2015/8/20）

第4回は打って変わってド直球。聖地を語る上で甲子園を外すことはできない。奇しくも今年  
は高校野球 100 周年のメモリアルイヤーであり、その決勝戦を聖地で見届けることにした。試合  
はまさに手に汗握る熱戦。だがこの日輝いていたのは球児だけではない。球場のアナウンスや表  
彰式での演奏は全て地域の高校生が担当している。彼らにとってもここは憧れの聖地なのだ。

ファンの楽しみも観戦だけにとどまらない。ミュージアムには地区予選に参加する全ての学校  
名が書かれたボールが並び、誰もがそこに出身校を見つけることができる。広場のレンガには歴  
代優勝校の名が刻まれており、あらゆる世代のシンパシーを誘う。全国からの思いと、100 年の  
歴史。それを財産として生かし、誰もが個人的な接点を見つけられる間口の広い聖地になってい  
る。



甲子園

## 8. 聖地巡礼の旅⑤ だんじり祭りの聖地・岸和田（2015/9/18）

第5回は、300年の歴史を誇る岸和田のだんじり祭り。この日は本番前の試験曳き。荒くれたイメージがあるが、現地で目にしたのは徹底して組織化された運営。各世代を網羅した育成システムはJリーグさながら。幹部の役割分担も完成されており、「破損交渉責任者」なるポストまで存在する。

祭りの真髄は、狭いS字状の辻を高速で走り抜ける「やりまわし」。これが可能になったのは道路の舗装化以降なので、300年のスパンで考えればごく最近の話。神事を起源とするも、今や競技としての側面が強まっており、だんじり自体のチューンナップも重要となる。やりまわししやすいようマンホールの段差を小さくするなど、行政による環境整備もだんじり仕様。たゆまぬイノベーションにより伝統をさらに進化させる。岸和田が全国のだんじり界をリードし続ける理由はそこにある。



岸和田



## 9. エピローグ —まだまだ旅の道半ば—

今回の寄稿は私たちにとって、これまでの道のりを振り返る良い機会になった。そして聖地巡礼の旅はこれからもまだ続いていく。あと概ね一年、ツアーの数にして4、5回を節目と考えているが、果たして研究会は目指す目的地に到達できるのか、あるいは途中で道を見失って天を仰ぐのか。その顛末は、1年後にまたこの協会レビューにて報告させていただきたい。それでは皆さん、また会う日までさようなら。

(株式会社 安井建築設計事務所 杉野 卓史)

### 協会レビュー 2015年第3号(平成27年12月発行)

発行元 一般社団法人都市計画コンサルタント協会

〒102-0093 東京都千代田区平河町二丁目一番一八号 ハイツニュー平河3F

Phone 03-3261-6058 Fax 03-3261-5082 E-mail info@toshicon.or.jp

Website <http://www.toshicon.or.jp/>

編集責任者 須永和久